

函館市の観光

令和5年度

函館市観光部

目 次

1	函館市の概要	1
2	観光部略年表	2
3	部の機構と分掌事務	7
4	令和5年度予算	8
5	令和5年度観光関係予算	9
6	観光振興施策の基本方針～「函館市観光基本計画」	10
7	令和5年度主要観光施策	12
8	函館市の観光統計	20
9	観光施設の概要と利用状況	21
10	国際観光都市宣言	26

1 函館市の概要

函館市は、室町時代の享徳3年（1454年）、津軽の豪族 河野政通が宇須岸（ウスケシ：アイヌ語で湾の端の意）と呼ばれていた漁村に館を築き、この館が箱に似ているところから「箱館」と呼ばれることになり、その後、明治2年（1869年）、蝦夷が北海道となり、箱館も函館と改められた。



本市は、北海道南端の渡島半島南東部に位置し、温暖な気候、恵まれた自然、集積した都市機能、さらには歴史と伝統に培われた文化、豊富な人文資源など数多くの優れた特性を背景に、北海道と本州を結ぶ交通の結節点として、また、南北海道における行政・経済・文化の中核都市として成長してきた。

このような中、昭和63年の青函トンネル開通記念博覧会や平成元年の「国際観光都市宣言」を契機に、恵まれた美しい自然と歴史的文化遺産を生かした観光資源・施設の整備や、航空路線網の拡大など交通アクセスの充実を図り、歴史とロマン溢れる街として多くの方々に親しまれる国際観光都市としてのまちづくりを進めてきた。

また、平成16年12月に戸井町、恵山町、榎法華村、南茅部町と合併し、豊かな海を擁する新たな函館市となり、平成28年3月には、北海道新幹線の開業によりさらなる飛躍の時を迎えた。

市制施行	大正11年(1922年)8月1日
面積	677.87 km ² (R5.4.1現在)
人口	241,895人 (住民基本台帳人口 R5.6末現在)
地勢	渡島半島の南東部に位置し、東・南・北の三方を太平洋・津軽海峡に囲まれ、西は北斗市・七飯町・鹿部町と接している。

2 観光部略年表

観光は、宿泊、運輸、飲食・小売その他のサービス業、さらには製造業や農林水産業など、幅広い産業に波及する裾野の広い総合産業であることから、平成26年度から令和5年度までを計画期間とする観光基本計画を策定し、官民が一体となって観光振興に取り組んでいる。

- 1922（大正11年） ・ 8月1日市制施行
- 1935（昭和10年） ・ 7月1日を開港記念日と定め、第1回港まつりを挙（開港77年）
・ 函館観光協会設立
- 1946（昭和21年） ・ 函館山を一般に開放
- 1952（昭和27年） ・ 北洋漁業再開（関連産業の復興始まる）
・ 五稜郭跡の特別史跡指定
- 1954（昭和29年） ・ 北洋漁業再開記念北海道大博覧会開催
- 1957（昭和32年） ・ 函館物産協会設立
- 1958（昭和33年） ・ 高田屋嘉兵衛銅像（建立）除幕
・ 函館山ロープウェイ営業開始（30人乗り）
・ 函館開港100年記念式典挙
- 1960（昭和35年） ・ 函館空港ターミナルビル完成（翌年、定期航空路営業開始 函館～札幌）
- 1964（昭和39年） ・ 五稜郭タワー完成（旧タワー：高さ62m）
・ 函館～大間間にカーフェリー就航
- 1966（昭和41年） ・ 函館港まつり、8月開催となる
- 1970（昭和45年） ・ 第1回箱館五稜郭祭開催
- 1971（昭和46年） ・ 函館空港拡張工事（2,000m滑走路およびターミナルビル等）完成、
中距離ジェット機就航
- 1973（昭和48年） ・ はこだてグリーンプラザA、Bブロック開園（翌年、Cブロック開園）
・ 第一次オイルショック、漁業専管区域200海里により、造船業、水産加工業などが大きな影響を受ける
- 1974（昭和49年） ・ 旧函館区公会堂、重要文化財に指定
- 1978（昭和53年） ・ 函館空港2,500m滑走路完成（翌年、エアバス就航）
- 1980（昭和55年） ・ 函館～名古屋線航空路開設
- 1982（昭和57年） ・ 元町公園開園
・ 旧北海道庁函館支庁庁舎の保存修理、元町観光案内所を開設
・ 函館市観光基本計画策定
・ カナダ ハリファックス市と国際姉妹都市提携
- 1983（昭和58年） ・ 重要文化財・旧函館区公会堂、一般公開
・ 函館ハリストス正教会復活聖堂、重要文化財に指定
- 1986（昭和61年） ・ 第1回はこだて冬フェスティバルを開催
- 1987（昭和62年） ・ 函館・大沼地区の国際観光モデル地区指定

- 1988 (昭和63年)
 - ・青函トンネル・津軽海峡線開業
 - ・青函連絡船, 80年の歴史に幕を閉じる
 - ・函館山展望台の増改築, 125人乗り大型ロープウェイ運行開始
 - ・青函トンネル開通記念博覧会開催 (7月9日~9月18日)
- 1989 (平成元年)
 - ・青森市とツインシティ (双子都市) 提携
 - ・国際観光都市宣言
 - ・函館~東京線航空路ダブルトラック (JAL就航)
- 1990 (平成2年)
 - ・函館~大阪線航空路, 18年ぶりに再開
 - ・函館シーポートプラザ開業
 - ・夜の観光資源を創造するファンタジー・フラッシュ・タウン計画 (ライトアップ) 始まる
 - ・函館港まつり一万人踊りパレード五稜郭コース始まる
- 1992 (平成4年)
 - ・観光客入込み数が初めて 500万人を超える (平成3年度)
 - ・旧イギリス領事館 (開港記念館) 開館
 - ・ロシア ウラジオストク市, オーストラリア レイクマコーリー市と国際姉妹都市提携
- 1994 (平成6年)
 - ・新函館市観光基本計画策定
 - ・函館~ユジノサハリンスク国際定期航空路開設
- 1995 (平成7年)
 - ・函館市写真歴史館開館
 - ・(社)函館観光協会が(社)函館国際観光協会に名称変更
 - ・函館コンベンションビューロー設立
- 1996 (平成8年)
 - ・函館~大阪線航空路ダブルトラック化 (JAL就航)
 - ・函館~仙台線航空路開設
- 1997 (平成9年)
 - ・ロシア ユジノサハリンスク市と国際姉妹都市提携
- 1998 (平成10年)
 - ・函館~新千歳線, 函館~旭川線および函館~釧路線航空路開設
 - ・第1回はこだてクリスマスファンタジー開催
- 1999 (平成11年)
 - ・(社)函館国際観光協会と函館コンベンションビューローが合併し, (社)函館国際観光コンベンション協会に名称変更
 - ・函館~女満別線航空路開設
- 2001 (平成13年)
 - ・元町観光駐車場オープン
 - ・旧岩船氏庭園「香雪園」(見晴公園) が国の名勝に指定
 - ・中国 天津市と友好交流都市提携
- 2002 (平成14年)
 - ・ペリー来航150周年記念事業開催
 - ・第1回函館塩ラーメンサミット開催
- 2003 (平成15年)
 - ・五稜郭観光駐車場オープン
 - ・JR函館新駅開業
 - ・はこだてフィルムコミッション設立
 - ・函館~丘珠線ダブルトラック化 (HAC就航)
- 2004 (平成16年)
 - ・函館市観光基本計画 (2004-2013) 策定
 - ・戸井町, 恵山町, 榎法華村, 南茅部町を編入合併

- 2005 (平成17年)
 - ・函館駅前広場完成
 - ・函館～羽田線トリプルトラック化 (ADO就航)
 - ・函館空港ターミナルビル増改築オープン
 - ・北海道新幹線新青森～新函館間建設着工
 - ・はこだて・シー・コンベンション2005開催
 - ・函館ひかりの屋台・大門横丁オープン
- 2006(平成18年)
 - ・新五稜郭タワー完成 (高さ107m)
 - ・函館～ソウル国際定期航空路開設 (週3便: 日, 火, 木曜日)
 - ・函館市夜景グレードアップ構想・基本計画策定
- 2007(平成19年)
 - ・函館～青森間新型高速フェリー就航(ナッチャンRera) (～2008.10)
 - ・「中空土偶」が北海道内唯一の国宝に指定
- 2008(平成20年)
 - ・観光コンベンション部発足
 - ・観光情報サイト「はこぶら」の開設
- 2009(平成21年)
 - ・旧イギリス領事館 (開港記念館) の展示物リニューアル
 - ・開港150周年記念事業開催
 - ・第1回はこだてMOMI-Gフェスタ開催
- 2010(平成22年)
 - ・「はこだて観光圏」の認定
 - ・JRA函館競馬場リニューアルオープン
 - ・箱館奉行所復元オープン
 - ・東北新幹線新青森開業
- 2011(平成23年)
 - ・東日本大震災
 - ・「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」において
市内21地点が星を獲得 (「函館山からの眺望」は三つ星)
 - ・韓国 高陽 (コヤン) 市と国際姉妹都市提携
 - ・函館市縄文文化交流センターオープン
 - ・全国産業観光フォーラムinはこだて開催
- 2012(平成24年)
 - ・「ミシュランガイド北海道2012特別版」刊行
 - ・北前船寄港地フォーラムinはこだて開催
 - ・函館港まつりにディズニーパレード招へい(市制施行90周年記念事業)
 - ・北海道新幹線新函館～札幌間建設着工
 - ・函館～台北国際定期航空路開設 (復興航空)
 - ・第1回はこだてグルメサーカス開催 (市制施行90周年記念事業)
 - ・函館～台北国際定期航空路開設 (エバー航空)
- 2013(平成25年)
 - ・青函圏観光都市会議設立 (青森, 弘前, 八戸, 函館の4市で構成)
 - ・函館国際観光コンベンション協会が「一般社団法人」に移行
 - ・函館～大阪 (伊丹) 線定期航空路, 8年ぶりに再開 (JAL)
 - ・JRA函館競馬24日開催 (札幌競馬場のスタンド改築等のため)
 - ・GLAY野外ライブ「GLORIOUS MILLION DOLLAR NIGHT Vol.1」開催
 - ・函館港まつりで「青森ねぶたの海上運行」実施
 - ・函館～三沢線航空路開設 (HAC)
 - ・函館ロゴマークの作成

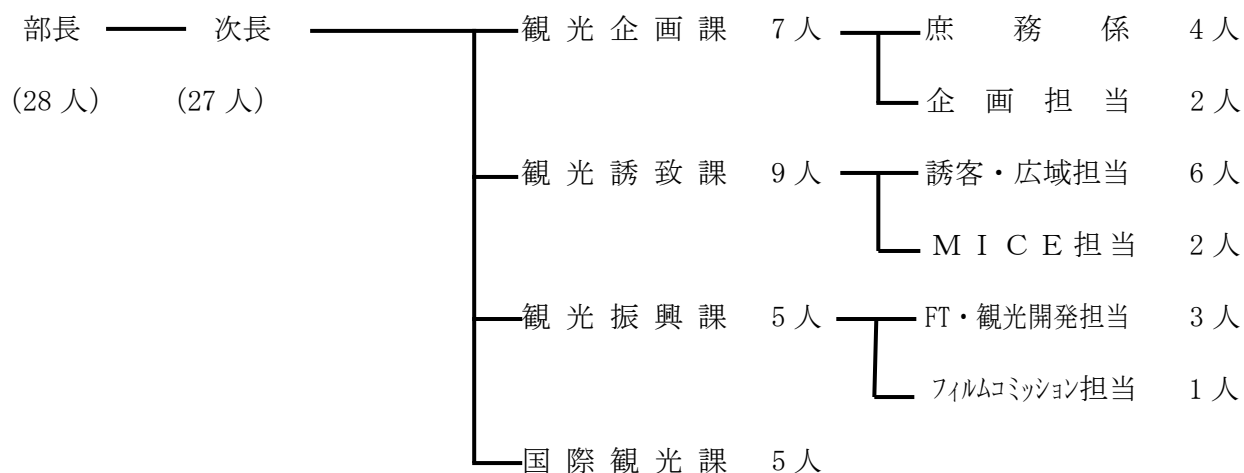
- 2014(平成26年)
 - ・観光部発足（観光コンベンション部から名称変更）
 - ・函館市観光基本計画（2014-2023）策定
 - ・五稜郭築造150年祭開催
 - ・北海道新幹線開業 青函圏・みなみ北海道連絡会議設立
（函館，道南，胆振・後志地方，青森県内の自治体で構成）
- 2015(平成27年)
 - ・函館～天津国際定期航空路開設（天津航空）
 - ・観光部内の組織見直し（4課体制：観光企画課，コンベンション推進課，観光推進課，国際観光課）
 - ・函館市観光案内所の改修
 - ・函館～北京国際定期航空路開設（中国国際航空）
 - ・「GLAYと宝探し」開催
 - ・函館アリーナこけら落とし公演
「GLAY Special Live at HAKODATE ARENA
GLORIOUS MILLION DOLLAR NIGHT Vol.2」開催
 - ・函館アリーナオープン
 - ・函館～杭州国際定期航空路開設（中国東方航空）
- 2016（平成28年）
 - ・ふるさと祭り東京2016に大型ブース出展
 - ・北海道新幹線新函館北斗駅開業
 - ・新幹線開業おもてなし事業実施
（おもてなし隊（観光案内，幕末衣装隊）設置，歓迎フラッグ掲出など）
 - ・函館市写真歴史館閉館
 - ・青函圏周遊博開催
 - ・青森県・函館デスティネーションキャンペーン実施
 - ・東京ディズニーシー15周年スペシャルパレード開催（函館港まつり）
 - ・函館～台北国際定期航空路開設（タイガーエア台湾）
 - ・第5回はこだてグルメサーカスに東北6県お祭りパレードを招へい，お祭り広場設置（北海道新幹線開業記念事業）
- 2017（平成29年）
 - ・外国人観光コンタクトセンター開設
 - ・中国向け観光PR動画配信開始
 - ・みなみ北海道・北東北食旅フェスタin仙台へのブース出展
- 2018（平成30年）
 - ・フェスティバルタウンウェブページ開設
 - ・GLAY野外ライブ「GLORIOUS MILLION DOLLAR NIGHT Vol.3」
 - ・中国デジタルプロモーション（動画配信，生放送アプリによるKOL招請ライブ配信，ブロガー招請）の実施
 - ・北海道ドラマティックロード推進協議会の設置
 - ・「恋人たちのまち函館」プロモーションの実施
 - ・胆振東部地震の影響により第7回はこだてグルメサーカスを中止
 - ・第1回はこだてひかりのガーデン開催
- 2019（令和元年）
 - ・函館山山麓観光駐車場の整備（令和2年4月有料化）
 - ・第1回湯の川冬の灯り開催

- 2020（令和2年）
- ・新型コロナウイルス感染症の世界的流行
 - ・函館市グルメクーポンの発行
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により函館港まつり，はこだてグルメサーカスを中止
 - ・外国人観光客向けAIチャットボットの導入
 - ・縄文文化通訳ガイド人材バンクの創設
 - ・冬季誘客促進事業（宿泊料金助成，グルメクーポン，はこだて週末冬花火，はこだて光の万華鏡（元町公園会場は新型コロナウイルス感染症の影響により中止））の実施
- 2021（令和3年）
- ・新型コロナワクチン接種の開始
 - ・函館市観光誘客促進事業「はこだて割」第1弾の実施
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により函館港まつり，はこだてグルメサーカスを中止
 - ・二次元アイドルグループ『HAKOMEN（ハコメン）』を活用した非接触型函館観光プロモーションの実施
 - ・北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産に登録
- 2022（令和4年）
- ・3年ぶりに函館港まつり，はこだてグルメサーカスを開催
 - ・「Wechat」を活用した中国デジタルプロモーションの実施
 - ・函館市観光誘客促進事業「はこだて割」第2弾・第3弾の実施

3 部の機構と分掌事務

観光企画課・観光誘致課・観光振興課・国際観光課の4課体制により、国内外からの誘客、MICE誘致、国際観光都市としてのブランディングに取り組んでいる。

【観光部組織機構】（人員 28 人 R5.6 現在）



【分掌事務】

観光企画課	1 観光に関する調査および統計に関すること。 2 観光計画の策定および推進に関すること。 3 国内観光客の受入れに関すること。 (庶務係) 1 部内の庶務および経理に関すること。 2 観光施設の整備および維持管理に関すること。 3 国内の観光関係団体との連絡に関すること。 4 市が設置する観光客用駐車場に関すること。 5 観光案内に関すること。 6 旧イギリス領事館（開港記念館）に関すること。
観光誘致課	1 国内観光客の誘致に関すること。 2 広域観光に関すること。 3 コンベンション等の誘致に関すること。 4 観光情報の発信に関すること。
観光振興課	1 観光資源の開発等に関すること。 2 観光関係諸行事に関すること。 3 映画等の撮影に係る誘致および支援に関すること。
国際観光課	1 外国人観光客の誘致に関すること。 2 外国人観光客の受入れに関すること。 3 外国の観光関係団体等との連絡に関すること。

4 令和5年度予算

函館市の一般会計予算は6月補正後予算で1,488億3,871万8千円、対前年度当初予算比約7.7%の増となっている。

また、観光関連の予算は、観光費7億3026万4千円、商工総務費232万7千円が計上されており、一般会計に対する構成比は約0.5%となっている。

【令和5年度函館市一般会計歳出6月補正後予算】

科 目	本年度6月補正後予算		前年度当初予算		比 較	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	増減額(千円)	増減率(%)
1 議会費	353,518	0.2	348,707	0.2	4,811	1.4
2 総務費	5,897,283	4.0	5,501,581	4.0	395,702	6.7
3 民生費	57,452,082	38.6	54,110,924	39.4	3,341,158	5.8
4 衛生費	14,532,521	9.8	11,289,228	8.2	3,243,293	22.3
5 労働費	148,569	0.1	147,873	0.1	696	0.5
6 農林水産費	1,433,904	1.0	1,110,356	0.8	323,548	22.6
7 商工費	12,764,074	8.6	12,724,111	9.2	39,963	0.3
商工総務費	2,327	0.0	2,375	0.0	△48	△2.1
観光費	730,264	0.5	829,282	0.6	△99,018	△13.6
8 土木費	10,468,355	7.0	9,923,057	7.2	545,298	5.2
9 消防費	1,620,322	1.1	634,208	0.5	986,114	60.9
10 教育費	8,171,641	5.5	7,567,318	5.5	604,323	7.4
11 公債費	11,371,252	7.6	11,550,816	8.4	△179,564	△1.6
12 諸支出金	7,748,366	5.2	5,440,126	4.0	2,308,240	29.8
13 職員費	15,598,656	10.5	16,881,695	12.3	△1,283,039	△8.2
14 予備費	1,278,175	0.8	200,000	0.2	1,078,175	84.4
合 計	148,838,718	100.0	137,430,000	100.0	11,408,718	7.7

※ ゴシック体表記は観光部関係予算。ただし、観光費には土木部関係経費および4支所関係経費を含む。

5 令和5年度観光関係予算

令和5年度の観光関係予算は、賑わいや活気を取り戻すため、市民や観光客が楽しめるイベントを実施するとともに、第5次函館市観光基本計画を策定するにあたり、観光基本計画策定経費の計上のほか、アメリカ市場へのプロモーションを強化および地域の核となる観光地域づくり法人(DMO)の設立を検討するための調査経費を計上している。

【令和5年度観光関係予算】 732,591千円(6月補正後予算ベース)

○商工総務費	2,327	観光行事関係経費	105,474
事務所要経費	2,327	(1) 箱館五稜郭祭開催負担金	3,680
○観光費	730,264	(2) 函館港まつり開催負担金	26,000
観光基本計画策定経費	9,200	(3) はこだてグルメサークス開催負担金	20,500
(1) 観光基本計画策定経費	9,200	(4) はこだてクリスマスファンタジー開催負担金	23,100
観光地域づくり法人関係経費	700	(5) はこだて冬フェスティバル開催負担金	20,000
(1) 観光地域づくり法人関係経費	700	(6) 大沼・函館雪と氷の祭典開催負担金	240
国内観光プロモーション実施経費	34,317	(7) 湯の川温泉花火大会開催補助金	2,500
(1) 観光キャンペーン実施経費	34,317	(8) 五稜星の夢開催補助金	1,200
海外観光プロモーション実施経費	47,197	(9) はこだてMOMI-Gフェスタ開催経費	5,191
(1) 観光プロモーション実施経費	33,432	(10) その他諸経費	3,063
(2) 中国デジタルプロモーション実施経費	9,065	観光関係団体負担金	1,290
(3) 海外観光客誘致促進協議会負担金	4,700	(1) 北海道観光振興機構負担金	670
観光客受入環境整備経費	30,406	(2) 日本観光振興協会負担金	100
(1) 滞在型観光促進経費	1,122	(3) 函館圏優良土産品推奨実行委員会負担金	20
(2) 観光産業人材育成経費	212	(4) 国際観光振興機構負担金	300
(3) 外国人観光客向けAIチャットボット運営経費	990	(5) 箱館高田屋嘉兵衛顕彰会負担金	200
(4) HAKODATE FREE Wi-Fi運営管理費	1,611	函館国際観光コンベンション協会補助金	34,400
(5) HAKODATE FREE Wi-Fi環境再整備事業費	19,446	(1) 函館国際観光コンベンション協会補助金	34,400
(6) 観光動向調査経費	7,025	観光施設維持管理費	30,080
広域観光連携関係経費	12,489	(1) 観光施設維持管理費	30,080
(1) 北海道新幹線新駅沿線協議会負担金	350	観光資源施設整備費	17,248
(2) 北海道トラマティックロード推進協議会負担金	3,145	(1) 特別史跡五稜郭跡観光照明塔改修事業費	17,248
(3) 道内中核都市観光連携協議会事業負担金	1,523	湯の川地区活性化推進費	15,400
(4) ひろはこ連携推進実行委員会負担金	5,030	(1) 湯の川冬の灯り開催負担金	15,400
(5) 青函観光宣伝協議会関係経費	778	観光拠点地区駐車場関係経費	34,270
(6) 北前船日本遺産推進協議会負担金	793	(1) 西部地区観光駐車場管理委託料	18,567
(7) その他諸経費	870	(2) 五稜郭観光駐車場管理委託料	4,600
地域ブランド関係経費	661	(3) 五稜郭観光駐車場自動管理システム使用料	2,112
(1) フェスティバルタウン推進経費	661	(4) 函館山麓観光駐車場自動管理システム使用料	1,980
観光客誘致宣伝経費	40,434	(5) 観光駐車場維持管理経費	7,011
(1) 観光宣伝印刷物等作成経費	17,280	観光案内所管理運営費	29,399
(2) 観光ポータルサイト「はこぶら」関係経費	22,400	(1) 観光案内業務委託料	27,080
(3) 観光大使等関係経費	754	(2) その他諸経費	2,319
はこだてフィルムコミッション関係経費	2,647	その他所要経費	10,932
(1) ロケーション誘致・支援推進費	647	土木部関係経費	220,000
(2) 函館港イルミネーション映画祭開催補助金	2,000	(1) 道路整備事業費	220,000
コンベンション誘致関係経費	6,929	4支所関係経費	46,791
(1) コンベンション誘致推進費	2,129	(1) 恵山つつじまつり開催負担金	2,500
(2) 各種大会補助金	4,800	(2) 恵山ごっこまつり開催負担金	300
		(3) ひろめ舟祭り開催負担金	4,000
		(4) なとわ・えさん交流センター改修事業費	18,315
		(5) 恵山地区イベント開催負担金	600
		(6) 観光施設民営化関係経費(ホテル恵風)	2,472
		(7) 観光施設維持管理費	18,604

6 観光振興施策の基本方針～「函館市観光基本計画」

「函館市観光基本計画」に基づき、各種施策を展開する。また、広く関係機関、学識経験者等の意見を反映させるため、函館市観光アドバイザー会議を設置する。

【函館市観光基本計画（2014-2023）】：平成26年（2014年）4月策定

1 基本理念

人・まち・文化の宝石箱 新・国際観光都市 函館へ

2 需要目標

令和5年度（2023年度）における観光入込客数 年間550万人

3 基本方針

基本理念を実現させるために3つの基本方針を設定し、施策を展開します。

(1) 交流・にぎわいの創出

○ 市民と観光客がともに集い、楽しむことで、様々な交流が生まれる、にぎわいのあるまち。

(2) おもてなし・満足度の向上

○ 観光客の満足度が極めて高い、おもてなしにあふれたまち。

(3) 国際化の促進

○ 海外からの観光客が安心して快適に楽しめる、世界に通じる観光のまち。

4 キーワード

基本方針から各施策へどのようにアプローチしていくべきか、そのポイントを明確に捉えられるよう、5つのキーワードを設定し、基本方針と組み合わせることで、具体的な施策へ結びつけます。

(1) 函館ブランド

○ 異国情緒あふれる街並みや歴史的建造物の保存活用、函館ならではの「食」や「歴史」の観光資源化、地域性を生かした観光メニューの創出などにより、「憧れ」と「身近さ」を兼ね備えた、市民が誇れる函館ブランドの確立を図ります。

(2) プロモーション

○ 北海道新幹線の開業を見据えた首都圏・北関東・東北や、誘客が期待できる東南アジア等の海外への誘致宣伝活動をはじめ、修学旅行、新規航空路線、クルーズ客船寄港などを対象とした誘致宣伝活動に取り組みます。

(3) ホスピタリティ

○ 観光客を迎えるホスピタリティ意識の醸成、人材の育成などにより、国内外からの観光客に感動を与えられるよう、まちを挙げてのホスピタリティの向上に努めます。

(4) もう一泊したいまち

○ 既存観光資源の見直しや新たな観光資源の創出のほか、広域連携による観光メニューの充実などにより、滞在型の観光を促進します。

(5) MICE

○ MICEを推進するため、函館アリーナをはじめ、受け入れ施設などに関する情報提供や誘致宣伝活動、各種支援サービスなどに取り組みます。

《函館市観光アドバイザー会議設置要綱》

(設置)

第1条 函館市観光基本計画（以下「計画」という。）の推進にあたり，広く関係機関，学識経験者等の意見を反映させるため，函館市観光アドバイザー会議（以下「会議」という。）を設置する。

(組織)

第2条 会議は，広く観光に関連する分野に属する各種団体から推薦された者および市が指定する者，計11人以内をもって組織する。

(任期)

第3条 委員の任期は2年とし，再任を妨げない。ただし，委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

(会議)

第4条 会議に座長を置く。

2 会議は，座長が招集する。

3 座長は，会議の進行と調整を行う。

4 市長は，必要に応じて会議に専門部会を置くことができる。

(意見の聴取)

第5条 市長は，施策展開等の検討に関し，必要があると認めるときは，委員以外の関係者の出席を求め，その意見を聞くことができる。

(庶務)

第6条 会議の庶務は，観光部観光企画課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか，会議の運営について必要な事項は，その都度座長が会議に諮って定める。

附 則

この要綱は，平成17年9月14日から施行する。

附 則

この要綱は，平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は，平成21年11月22日から施行する。

附 則

この要綱は，平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は，平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は，平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は，令和2年2月25日から施行する。

7 令和5年度主要観光施策

観光を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、市および関係団体・関係機関が連携し、市民との協働を図りながら、柔軟かつ効果的に施策を展開します。

【主要施策】

1 地域基盤構築

- 市と地域の観光振興の中核を担う函館国際観光コンベンション協会との役割分担の見直しと連携強化により、効果的かつ機動的な観光施策推進体制の確立を目指します。
- 市内外の関係機関等との積極的な情報交換・交流を図り、情報ネットワークの拡充・強化に努めます。

2 ビジョンの発信

- 観光施策の基本方針等について、観光関連団体等と情報共有するとともに、令和6年(2024年)から5年間の第5次観光基本計画を策定し、広く発信します。

3 課題抽出と対策立案

- 第5次函館市観光基本計画を策定するにあたり、有識者や観光関連団体、市民公募の委員からなる策定委員会を組織し、函館観光の課題や今後の方向性についての検討を行うほか、市民や市議会からの意見聴取を行います。

4 観光力の向上

- 賑わいや活気を取り戻すため、市民や観光客が楽しめるイベントの内容などを計画・実施するとともに、その情報発信を行います。また、人材・財源の確保が難しくなる中、既存イベントの見直しを含め、参加者および関係者にとって持続可能なイベントのあり方を検討していきます。
- 様々なイベント主催者などとの連携を深めながら、賑わいと活気の溢れる「フェスティバルタウン」としての認知度の向上やイベント関係者のコミュニティの活性化などを進めます。
- 国内外の観光客に訴求する地域の新たな魅力の掘り起こしや、観光需要回復を見据えた受入環境整備を進めます。

5 魅力発信と誘客促進

- 関係部局と連携を図りながら、世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」の国内外への情報発信の強化に努めるとともに、観光資源としての活用を推進します。
- 函館発偉人アイドルグループ「HAKOMEN」を活用したWEBやSNSなどによる観光プロモーションや教育旅行の受入環境のPRなど、効果的な誘客促進策を立案・展開します。
- 観光誘客促進にかかる施策を展開するほか、インバウンドの本格的な回復に向け、旅行消費額拡大や持続可能な観光地域づくりに取り組みます。

- 函館国際観光コンベンション協会や北海道MICE誘致促進協議会と連携しながら、積極的な誘致活動を展開するとともに、MICE開催に向けた情報収集ならびに効果的な支援に努めます。
- 函館のロケ地としての魅力をPRし、映画、ドラマ、CMなどのロケ地誘致や撮影支援を行うとともに、ロケ地めぐりなどを通じた観光誘客に努めます。

6 地域間連携

- 東日本の新幹線沿線地域や東北地域等と連携し、国内外からの誘客を図るための広域観光ルートの形成に努めます。
- 青森市、弘前市等と連携し、青函圏の魅力を広く発信するとともに誘客の強化に努めます。
- 札幌市および登別市と連携しながら、3市の魅力を発信し、誘客・周遊の促進を図るなど、「北海道ドラマティックロード」の構築に向けた取り組みを進めます。

【主な個別施策（6月補正後予算ベース）】

1 地域基盤構築

○函館国際観光コンベンション協会補助金

本市の観光振興および地域経済活性化を図ることを目的として補助金を交付している。

○観光関係団体負担金

北海道観光振興機構、日本観光振興協会、函館圏優良土産品推奨実行委員会、国際観光振興機構、箱館高田屋嘉兵衛顕彰会

2 ビジョンの発信

○次期観光基本計画の策定準備

現在の観光基本計画の計画期間は、令和5年度（2023年度）までとなっているため、令和6年度（2024年度）から5年間の第5次観光基本計画を策定し、広く発信を行う。

3 課題抽出と対策立案

○函館市観光基本計画策定検討委員会の設置

第5次函館市観光基本計画を策定するにあたり、有識者や観光団体、市民公募の委員会からなる策定委員会を組織し、函館観光の課題や今後の方向性についての検討を行うほか、市民や市議会からの意見聴取を行う。

4 観光力の向上

○イベント間連携の推進・支援

各イベント主催者間での相互連携を図るためメーリングリストの活用や、各イベント運営の一助とするべく市内外の有志を募るイベントボランティア登録制度を活用する。

○イベントの充実

【主なまつり・イベントの開催一覧】

名 称	主 催 者 名	開 催 時 期	行 事 内 容
箱館五稜郭祭	箱館五稜郭祭協賛会	5月中旬	碑前祭（5月第3土曜日）， 維新行列，開城セレモニー
恵山つつじまつり	恵山つつじまつり 実行委員会	5月中旬～6月上旬	ソーラン踊り，吹奏楽演奏ほか
南かやべひろめ舟祭り	南かやべひろめ舟祭り 実行委員会	6月中旬	舟こぎ競争，郷土芸能ほか
函館港花火大会	函館新聞社	7月中旬	海の日を記念した花火大会
市民創作函館野外劇	市民創作「函館野外劇」の会	7月上旬～8月上旬	野外劇「星の城，明日に輝け」
函館港まつり	函館港まつり実行委員会	8月1日～5日	ワッショイはこだて，歩行者天国， 道新花火大会ほか
湯の川温泉花火大会	湯の川温泉花火大会 実行委員会	8月中旬	花火大会
はこだてグルメサーカス	はこだてグルメサーカス 実行委員会	9月上旬	飲食ブースの出店，ステージイベント
はこだてMOMI-Gフェスタ	函館市	10月中旬～11月上旬	紅葉のライトアップほか
はこだてクリスマス ファンタジー	はこだてクリスマス ファンタジー実行委員会	12月	巨大もみの木のクリスマスツリーの 設置，花火の打ち上げほか
五稜星（ほし）の夢	五稜星の夢実行委員会	12月初旬～2月下旬	特別史跡五稜郭跡の外堀の イルミネーションほか
はこだて冬フェスティバル	はこだて冬フェスティバル 実行委員会	12月初旬～2月下旬	二十間坂通，開港通りなどのイルミ ネーション，ライトアップほか
湯の川冬の灯り	湯の川冬の灯り実行委員会	12月初旬～2月下旬	イルミネーション，ライトアップ， 湯の川まちあるきイベントほか
函館港イルミナシオン映画祭	函館港イルミナシオン 映画祭実行委員会	12月上旬	映画の上映，トークショー， シナリオ大賞受賞式ほか
はこだてFOODフェスタ	はこだてFOODフェスタ 実行委員会	2月下旬	「食」をテーマとした各種イベント

注) 各支所管内のまつり・イベントを含む。

(2) 受入環境の整備

○滞在型観光の促進

函館観光の魅力の一つである「まち歩き観光」に対応した着地型の観光案内ツールとして、平成21年度から「函館まちあるきマップ」を作成し、多様なまち歩きコースを紹介するとともに、観光客の宿泊日数や滞在時間の長期化を図っている。

○縄文文化人材バンク運営事業

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録後、縄文文化交流センターを訪れる外国人観光客の増加により、通訳ガイドの不足が懸念されることから、縄文の魅力を正確に伝えることのできる質の高い通訳ガイドの確保および育成を図る。特に、本市インバウンドのボリュームゾーンである中国・台湾に対応可能なガイドの登録がないため、令和4年度から渡島総合振興局と共同で中国語ガイド育成に取り組んでいる。すでにガイド研修を完了した養成者5名を対象とし、縄文遺跡多言語ガイドの先進地である三内丸山遺跡において、ガイドスキル習得のための視察・研修会を開催するとともに、縄文遺跡ガイド経験豊富な青森県の通訳ガイドと情報・意見交換の機会を設ける。

○外国人観光客向けA Iチャットボットの運営

外国人観光客からの問い合わせに、A Iチャットボットを活用することで、24時間対応が可能となり、受入環境の向上を図る。令和2年10月開設。

【利用実績】

	英語	繁体字	簡体字	韓国語	その他	計
令和2年度 (R2.10~3)	91	7	1	9	61	169
令和3年度	72	14	1	2	3	92
令和4年度	141	81	6	25	0	253

○HAKODATE FREE Wi-Fi

平成27年度に函館市内の主要な観光エリアである元町エリアおよびベイエリアにおいて、35施設に48アクセスポイントを設置し、平成28年4月1日からHAKODATE FREE Wi-Fiとしてサービスの提供を開始。平成28年度には、函館駅前、大門、五稜郭、湯川等にエリアを拡大した。全ての機器が設置から5年経過し、経年劣化による故障も増加していることから、新たな機器を導入することにより、不稼働発生件数を抑えるとともに、最新の機器とすることで通信速度を改善し、観光客の満足度向上を図る。

5 魅力発信と誘客促進

(1) 情報発信

○函館市公式観光情報サイト「はこぶら」の運営

開設年月日：平成20年12月1日

掲載内容：飲食・観光スポット・土産品等の情報、イベント情報、フォトライブラリー、交通・宿泊情報、観光コラム、新型コロナウイルス感染症関連情報等

対応言語数：8言語（日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、タイ語、インドネシア語、マレーシア語）

【ページビュー数】

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
10,954,713 件	9,307,811 件	6,913,559 件	7,026,110 件	10,142,848 件

(2) 誘客促進

○HAKOMENを活用した函館観光プロモーション

事業目的：コロナの影響による旅行スタイルやニーズの変化等を踏まえた非接触型のデジタルプロモーションと市内でのリアルイベントを行う。

発信内容：函館にゆかりのある歴史上の偉人をキャラクターにして、令和3年9月に結成した二次元アイドルグループ『HAKOMEN』を活用し、「景観」「食」「歴史」（縄文を含む）といった函館観光の魅力を発信した。

○海外観光プロモーション

個人の外国人旅行者の入国が解禁され、今後インバウンドの大幅な増加が見込まれることから、中国、韓国、タイ、ベトナムなど海外現地での旅行博等へ参加し、外国人観光客の積極的な誘致活動に取り組むほか、デジタルを活用した台湾人観光客の誘客、中国人富裕層向けのコンテンツ造成・販売、マレーシアの現地メディア招請などの実施により、旅行需要喚起や地域消費の拡大につなげる。また、これまでのメインターゲットであったアジア市場に加え、アメリカ市場へのプロモーションを強化するため、同市場の動向を調査し、今後のプロモーション施策のための一助とする。

○中国デジタルプロモーション

中国国内で人気のメッセージアプリ「Wechat」を活用し、中国人観光客が訪日できない状況でも本市の商品を購入、また往来再開後にその商品を現地で食・体験することを目的として訪問させるため、観光情報にEC機能を付与して一体的な情報配信を行う。

○MICEの誘致

平成27年8月の「函館アリーナ」のオープンと平成28年3月の北海道新幹線開業を契機とした宿泊施設の増加などにより、当市の受入環境は大きく改善し、従前以上に多種多様な規模・内容のMICEの開催要望が増加していることを踏まえ、引き続き、(一社)函館国際観光コンベンション協会等と連携し、当市での開催にかかる支援メニューの充実を図るとともに、学会事務局や大学関係、PCO等への一層積極的な誘致活動を展開していく。

○はこだてフィルムコミッション事業

平成15年12月に「はこだてフィルムコミッション」を設立し、テレビ、映画、雑誌等の撮影を支援している。

【撮影支援件数】

区 分	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
テレビ、映画等	62 件	69 件	98 件	99 件

6 地域間連携

広域連携の取り組みとして、北海道新幹線新駅沿線地域や登別市・札幌市との連携による周遊観光の促進を図るとともに、首都圏～青函圏～道央圏といった周遊観光ルートの構築に向けて東日本エリアにおける新たな広域連携にも取り組んで行くこととしている。

○道内中核都市観光連携協議会（H23. 4設立）

北海道6圏域の中核都市が相互に観光情報を発信するとともに、観光プロモーション事業などを共同で実施するなど観光事業の一部を連携して実施する。

<構成等>

札幌市，旭川市，函館市，釧路市，北見市，帯広市

<主な取組>

- ・ 6都市集客・周遊プロモーション事業

○北海道新幹線新駅沿線協議会（H25. 5設立）

北海道新幹線新駅沿線地域が保有する観光資源等を活用して観光客の誘致を図るため、北海道新幹線沿線の5市町および交通事業者等による協議会を設立し、北海道新幹線新駅沿線地域の宣伝誘客および地域の広域観光の振興に取り組んでいる。

<構成等>

函館市，北斗市，七飯町，鹿部町，森町，JR北海道等交通事業者，各自治体観光協会

<主な取組>

- ・ はこだて旅するパスポート，利用促進パンフレットの発行
- ・ イベントプロモーション事業の実施
- ・ 駅ナカお出迎え事業の実施

○北前船日本遺産推進協議会（H29. 5設立）

平成29年度に日本遺産認定されたストーリー「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」を活用し、関係機関等の連携のもと、観光振興および地域活性化の推進を図る。

<構成等>

石狩市，小樽市，函館市，松前町，野辺地町，鱒ヶ沢町，深浦町，能代市，男鹿市，秋田市，由利本荘市，にかほ市，酒田市，新潟市，長岡市，佐渡市，上越市，富山市，高岡市，輪島市，小松市，加賀市，坂井市，南越前町，敦賀市，小浜市，宮津市，新温泉町，鳥取市，浜田市，呉市，尾道市，倉敷市，赤穂市，高砂市，洲本市，神戸市，大阪市，鶴岡市，出雲崎町，金沢市，白山市，志賀町，泉佐野市，姫路市，たつの市，竹原市，多度津町，備前市

<主な取組>

- ・ 北前船寄港地に係る情報発信および交流人口拡大
- ・ 北前船寄港地に係る歴史文化の環境整備

○北海道ドラマティックロード推進協議会（H30.4設立）

北海道新幹線開業を契機として、函館および道南への観光客の増加する中、日本有数の観光資源を有し、特に国内外の観光客の誘客が期待できる札幌市、登別市、函館市の3市および交通事業者等が連携強化を図り、東北、首都圏、中部、関西地域からの誘客と3市が基軸となった周遊ルートを図る。

<構成等>

函館市、札幌市、登別市

<主な取組>

- ・ 個人旅行者獲得のための取り組み
- ・ 北海道ドラマティックロードのブランディング

○青函観光宣伝協議会

青函両市を一体の観光圏として売り込み、観光客の誘致を図ることを目的に、両市ともに空路でつながっている中部圏・関西圏を対象に観光プロモーションを実施している。

<構成等>

函館市、青森市

<主な取組>

- ・ 中部圏・関西圏での共同プロモーション

○東日本広域周遊ルート関係

平成27年度からさいたま市主催の北海道新幹線沿線自治体の「東日本連携・創生フォーラム」首長連携会議が開催され、今年度も引き続き実施。本フォーラムの枠組みを活用し、東日本連携各自治体間の広域連携による物産・食・文化・祭・イベント等の地域資源を相互活用した広域観光周遊ルートの策定および当該周遊ルートの国際的な観光認知度の向上を図る。

<連携自治体>

さいたま市（事務局）、函館市、札幌市、青森市、八戸市、盛岡市、岩手町、仙台市、秋田市、山形市、会津若松市、福島市、郡山市、宇都宮市、小山市、那須塩原市、みなかみ町、新潟市、三条市、魚沼市、南魚沼市、高岡市、氷見市、南砺市、金沢市、長野市、上田市、福井市

<主な取組>

- ・ 東日本ウェブプロモーション事業

○3D連携関係

函館、大館、角館の3D（館）に加え、秋田犬ツーリズムを構成する北秋田市、小坂町、上小阿仁村が連携し、北海道・東北新幹線、函館空港と仙台空港を結びつけるなど、広域周遊ルートの開発による国内外からの誘客を拡大する。

<連携自治体>

函館市、大館市、仙北市、北秋田市、小坂町、上小阿仁村

<主な取組>

- ・ 相互イベント交流

○青函4市連携

令和元年度末に解散した「青函圏観光都市会議」の枠組みで青森市、弘前市、八戸市、函館市の4市が連携し、相互プロモーションなどの取り組みにより、交流人口の拡大を図る。

<連携自治体>

青森市、弘前市、八戸市、函館市

<主な取組>

- ・ 相互イベント交流

○ひろはこ連携推進実行委員会（R4.4設立）

古くから人・物の交流によるつながりがあり、広域観光などにおいて関わりが深い弘前市と連携し、両市の相互誘客や周遊観光の促進などを図る取り組みを実施する。

<構成等>

弘前観光コンベンション協会、函館国際観光コンベンション協会、
弘前市、函館市

<主な取組>

- ・ 冬には「初音ミク」の派生キャラクターであり北海道応援キャラクターの「雪ミク」と、春には同じく派生キャラクターで弘前さくらまつり公式応援キャラクターの「桜ミク」と連携した取り組みを両市で展開する。

8 函館市の観光統計

函館市では、令和5年度(2023年度)の観光入込客数の目標を550万人とし、観光の振興に向け、様々な施策に取り組んできている。

1 来函観光入込客数

(1) 道外・道内別、宿泊・日帰り別観光入込客数

区分	総数 (千人)	道外		道内		宿泊		日帰り	
		観光入込 客数 (千人)	構成比 (%)	観光入込 客数 (千人)	構成比 (%)	観光入込 客数 (千人)	構成比 (%)	観光入込 客数 (千人)	構成比 (%)
令和2年度	3,103	1,596	51.4	1,507	48.6	1,600	51.6	1,503	48.4
令和3年度	3,462	1,606	46.4	1,856	53.6	1,652	47.7	1,810	52.3
令和4年度	4,547	2,584	56.8	1,964	43.2	2,697	59.3	1,851	40.7

(2) 交通機関別観光入込客数

区分	総数 (千人)	観光入込客数 () 内は構成比%			
		鉄道 (千人)	乗用車等 (千人)	船舶 (千人)	航空機 (千人)
令和2年度	3,103	520 (16.8)	2,087 (67.2)	204 (6.6)	292 (9.4)
令和3年度	3,462	580 (16.8)	2,265 (65.4)	230 (6.6)	388 (11.2)
令和4年度	4,547	898 (19.7)	2,682 (59.0)	310 (6.8)	657 (14.5)

(3) 訪日外国人宿泊客数

(単位：人)

	中国	韓国	台湾	香港	シンガ ポール	マレー シア	タイ	インド ネシア	アメリカ	その他	計
R2年度	696	106	102	8	20	28	39	38	222	993	2,252
R3年度	284	73	48	1	12	12	4	15	244	424	1,117
R4年度	4,789	9,135	28,046	7,906	9,000	3,983	10,094	2,062	4,997	10,363	90,375

2 主な観光施設利用者数

区分	函館山ロープウェイ (人)	旧函館区公会堂 (人)	五稜郭タワー (人)
令和2年度	403,170	—	249,507
令和3年度	398,991	84,855	280,724
令和4年度	1,002,626	157,587	714,920

※ 旧函館区公会堂は、平成30年10月から令和3年4月25日まで保存修理工事のため休館

9 観光施設（市所管）の概要と利用状況

函館市旧イギリス領事館（開港記念館）および観光客や市民の利便に供するため、元町地区および五稜郭地区に観光駐車場等を設置している。

1 函館市旧イギリス領事館（開港記念館）の概要

(1) 設置の趣旨

歴史的建造物を保存し、および活用して、箱館開港の歴史を広く市民および観光客に伝えるとともに、その利用に供し、もって本市の文化の向上と観光の振興に資する。

(2) 施設の概要

所在地	函館市元町 33 番 14 号
構造	レンガ造 2 階建て瓦葺き
規模	展示室 (5), 資料室, 開港記念ホール, 研修室 (2), ティールーム, ショップ, 洋式庭園, その他
開館時間	午前 9 時～午後 7 時 (4 月 1 日～10 月 31 日) 午前 9 時～午後 5 時 (11 月 1 日～3 月 31 日)
休館日	12 月 31 日・1 月 1 日
建物面積	延べ床面積 965.35 m ²
敷地面積	3,762.32 m ²
駐車場	なし
開設年月日	平成 4 年 8 月 1 日
管理運営	指定管理者 (函館市旧イギリス領事館 (開港記念館) 施設活用プロジェクトチーム)

(3) 利用者数

年 度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
利用者数	25,375 人	41,912 人	79,581 人

2 函館市元町観光駐車場の概要

(1) 設置の趣旨

マイカーやレンタカーを利用する観光客が増加している状況のなかで、元町公園周辺地区の交通混雑、路上駐車等による交通渋滞を解消し、観光客や市民の利便に供する。

なお、観光客等の利用状況を勘案し、付近住民や企業からの要望も踏まえ、平成 20 年 4 月より立体駐車場の一部を月ぎめ駐車場として供用している。

(2) 施設の概要

・広場式

所在地 函館市元町 33 番
規模 収容台数 乗用車 41 台
供用時間 午前 0 時～午後 12 時
供用期間 1 月 1 日～12 月 31 日
敷地面積 1,294.55 m²
開設年月日 平成 13 年 4 月 21 日
管理運営 指定管理者 ((株)マルゼンシステムズ)

・立体式

所在地 函館市末広町 20 番 13 号
構造 鉄骨造陸屋根 3 階建て
規模 1 階 収容台数 乗用車 52 台 (月ぎめ)
2 階 収容台数 乗用車 43 台 (月ぎめ)
3 階 収容台数 乗用車 52 台
供用時間 1・2 階 午前 0 時～午後 12 時
(月ぎめ) ただし、開場時間は午前 6 時～午後 10 時
3 階 午前 9 時～午後 7 時 30 分 (4 月 1 日～10 月 31 日)
3 階 午前 9 時～午後 5 時 30 分 (11 月 1 日～3 月 31 日)
供用期間 1・2 階 (月ぎめ) 1 月 1 日～12 月 31 日
3 階 1 月 4 日～12 月 30 日
建物面積 延べ床面積 3,510.60 m²
敷地面積 1,664.57 m²
開設年月日 平成 13 年 4 月 21 日 (1・2 階の月ぎめ駐車場化は平成 20 年 4 月 1 日)
管理運営 指定管理者 ((株)マルゼンシステムズ)

(3) 利用台数

年 度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
利用台数	17,305 台	22,865 台	35,317 台

※ 利用台数については、月ぎめ駐車場利用分は、含まれていない。

3 函館市五稜郭観光駐車場の概要

(1) 設置の趣旨

マイカーやレンタカーを利用する観光客が増加している状況のなかで、特別史跡五稜郭跡周辺地域の、交通混雑、路上駐車等による交通渋滞を解消し、観光客や市民の利便に供する。

(2) 施設の概要

所在地	函館市五稜郭町 27 番
規模	収容台数 乗用車 97 台（車椅子専用 2 台含む）
供用時間	午前 0 時～午後 12 時
供用期間	1 月 1 日～12 月 31 日
敷地面積	3,317.97 m ²
開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日
管理運営	指定管理者（セントラル警備(株)）

(3) 利用台数

年 度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
利用台数	21,928 台	34,452 台	52,089 台

4 函館市函館山山麓観光駐車場の概要

(1) 設置の趣旨

マイカーやレンタカーを利用する観光客が増加している状況のなかで、函館山ロープウェイ山麓駅周辺地域の、交通混雑、路上駐車等による交通渋滞を解消し、観光客や市民の利便に供する。

(2) 施設の概要

所在地	函館市元町 18 番
規模	収容台数 乗用車 47 台（車椅子専用 1 台含む）
供用時間	午前 0 時～午後 12 時
供用期間	1 月 1 日～12 月 31 日
敷地面積	574.2 m ²
開設年月日	令和 2 年 4 月 1 日
管理運営	指定管理者（(株)マルゼンシステムズ）

(3) 利用台数

年 度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
利用台数	22,649 台	22,445 台	37,312 台

5 観光案内標識・観光照明灯等

市内に点在する観光資源を紹介するため、案内板や名所説明板等を計画的に配置し、観光客の利便性を高めるとともに、散策コースおよび各観光地にガス灯風の観光街路灯等を設置するなど、観光環境の整備に努めている。

令和元年度に説明板の一部（73基）について国の補助事業を活用し、QRコードによる多言語対応を実施した。

(1) 観光案内標識の整備状況（R5.4現在）

種類	設置数	多言語表記			
		5言語表記	2言語表記	3言語表記	4言語表記
案内板	50基	37基	13基		
名所説明板	83基	2基		4基	
		77基			
坂説明柱	43基	43基			
誘導指標	109基				
歓迎塔	2基				
計	293基				

(2) 観光照明灯の整備状況（R5.4現在）

種類	設置数
観光街路灯	825基（西部地区627基，湯川地区193基）
ガス灯	0基
観光照明塔	5基
計	830基

(3) ライトアップ施設の整備状況（R5.4現在）

投光器設置施設 27箇所

(4) 観光客誘導ラインの整備（R5.4現在）

歩道上に誘導先を表示した石板またはシールを貼り、観光施設への円滑な誘導を図っている。

誘導ライン施工延長 7路線延べ8,630m

(5) 観光車両案内標識の整備

市内の主要道路や観光施設の周辺部に、観光車両の円滑な誘導を図るため、車両対応型の案内標識を整備している。

（H8年度事業 70基 H10年度事業 20基 H16年度事業 2基）

(6) まちあるき休憩ベンチの整備 (R5.4 現在)

散策の途中で気軽に休憩できるスペースとしてベンチを設置している。

まちあるき休憩ベンチ設置数 11 基

6 観光案内所

函館駅内（「V」案内所：昭和 62 年指定。平成 30 年には、JNT0 による外国人観光案内所（カテゴリー 2）に認定）に設置している。

平成 23 年度は、国の交付金による緊急雇用創出事業を活用し、五稜郭地区に観光案内所を試験的に設置した（設置期間：平成 23 年 4 月 25 日～平成 24 年 3 月 25 日 来所人員：17,702 人）ほか、平成 28 年度には、新幹線開業おもてなし事業として、4 月から 9 月までの土日、祝日に五稜郭タワーおよび金森赤レンガ倉庫群において臨時観光案内窓口を開設した。

(1) 函館市観光案内所来所人員

区分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
駅 内	34,196 人	37,068 人	80,955 人
前年対比	35.9%	108.4%	218.4%

(2) 元町公園パンフレットブース

元町公園パンフレットブース (R2.4～) は「函館市西部地区再整備事業」として活用するため、令和 3 年 3 月をもって廃止し、都市建設部に所管替えをした。

7 まちかど観光案内所

観光客の利便性を高めるとともに、観光客と地域住民との交流を通じた市民と行政との協働による観光地づくりを目的に、市内の観光関連事業者等が「まちかど観光案内所」の開設者となり、観光客に対し道案内や観光情報を提供している。

開 設 平成 16 年 3 月 23 日

開設者数 109 施設 (R5.4 現在)



国際観光都市宣言

函館は、美しい自然、豊かな温泉、そして異国情緒あふれるまち並みや歴史的文化遺産などの観光資源に恵まれた、魅力ある都市です。

世界の国々から訪れる方々を、私たち函館市民が温かい真心で迎え、感動とやすらぎのなかで、再び函館を訪れたいくなるような、人情味あふれる観光地づくりをすることが、観光都市函館のねがいです。

歴史と文化のかおり高い美しい街函館の、より一層の飛躍を目指し、全市民の総意と熱意をもって、ここに「国際観光都市・函館」を宣言します。

平成元年 8 月 1 日

函 館 市